

## ＜今年度の取組成果＞

- 移転元地の活用に向けた今後の取組の「ロードマップ」を作成。市のみならず、地域の方々や民間事業者等の様々な関係者と連携して進めていく方針へ転換。
- 官民連携により取組を進めるため、取組をコーディネートしていただける人材の確保や、その協力の下で関係者での勉強会を実施し、官民連携による取組体制を構築し、具体的な取組を推進。

所在地：宮城県東松島市

主な用途：観光農園等を想定

※周辺施設を含めて様々な方向性を検討

## ■ 位置図



## 1. 目的と背景

## 移転元地と民有地が混在する地区において、「令和の果樹の花里づくり」構想の実現に向けた方策を検討

- ・ 検討対象地は、特別名勝松島内にある約25haのエリアで、土地活用がなされないまま外来種等雑草の繁茂や不法投棄等によって景観が損なわれている。
- ・ また、当該地区では移転元地と民有地がモザイク状に混在しており、有効な土地活用が進まない状況にある。
- ・ 東松島市では「令和の果樹の花里づくり」構想を検討してきたが、これまでは庁内検討に留まっており、様々な方々のアイデアの導入や合意形成、市と連携して取組を進めるプレーヤーの確保等を進めていくことが必要。



対象地区空撮



対象地区中央付近より野蒜海岸方向を望む

## 2. 本取組のターニングポイント

- ① 官民が連携し取組を進めていくためのプラットフォームを組成し、地区の将来像や活用の方策等を定めるビジョンを策定して腰を据えて取組を進める方向に転換したこと
- ② ワーキンググループのコーディネーターとなる人材を確保できたこと

## 本取組を進める際に想定された課題

「令和の果樹の花里づくり」構想エリアにおいては、民有地がモザイク状に混在し、一体的な活用の妨げとなっていたことから、土地集約等の実施手法の検討が優先すべき課題であると捉えていた。しかし、検討を進めるうち、

- ・「令和の果樹の花里づくり」構想はまだ庁内検討の段階であり、様々な立場からの意見やアイデアを出し合って議論しながら計画をつくり、プレーヤーを発掘し、実現していくための体制がつかれていない。
- ・また、取組を着実に進めていくためのビジョンやロードマップが描かれていない。

という課題があることが分かった。将来的には土地の集約等も検討していく必要があるが、先ず取組の目的と実現したい将来像を明確化することが重要であることから、令和3年度は、特に上記2点の解決を目指して取り組んだ。

## 今年度の取組項目

- I 庁内外関係者による検討体制の構築
- II 事業を具現化するためのビジョンづくり ※次年度以降のテーマ
- III 地域住民・市民・事業者との連携

## 3. 取組経過や主な調整プロセス

### 6～10月 情報収集・整理とともに、取組体制や進め方等について検討

- ▶ 全国のまちづくり事例を収集し、それらを参考に東松島市における取組を進める方策を検討した。
- ▶ 他の取組のプロセスも参考に東松島市における取組のロードマップ（※p7-3 図3参照）の検討も進めながら実現に向けた方策を検討し、その推進にあたっては市のみならず、地域の方々や民間事業者等の様々な関係者と連携（官民連携）して進めていく方針とした。
- ▶ 具体的には、この場所で何をどのようにやっていくかを示す明確なビジョンの作成や、そのための民間事業者や市民を交えた官民連携の検討体制づくり（官民連携プラットフォームの構築）に丁寧に取り組んでいくこととした。

ターニングポイント①

官民が連携し取組を進めていくためのプラットフォームを組成し、地区の将来像や活用の方策等を定めるビジョンを策定して腰を据えて取組を進める方向に転換したこと

### 10～2月 ワーキンググループの立ち上げに向けたコーディネーターの確保と勉強会の開催

- ▶ 上記の方針のもと、今後は関係者の官民連携プラットフォームとなる「ワーキンググループ」の立ち上げに向けて、官民の取組をコーディネートしていただける人材の確保がカギとなるため、様々なネットワークを使って候補者を検討した。
- ▶ 東松島市ともつながりがあり、まちづくりや企業経営に造詣の深い専門家に、コーディネーターの役割を担うことの承諾を得た。
- ▶ ワーキンググループを立ち上げるための準備として、コーディネーターの協力のもと、民間事業者、地域おこし協力隊、地域住民等が参加した勉強会が開催され、アイデア出しやプレーヤーの発掘等、具体的な検討を推進した。※p7-3 図1、写真1参照

ターニングポイント②

ワーキンググループのコーディネーターとなる人材を確保できたこと

### 主な関係者調整プロセスのポイント

- ▶ 当初の課題認識は、地区内にモザイク状に存在する公有地を如何に集約するかが中心であったが、取組を進めていくためには市内外の様々な関係者の理解や協力を得ていくことが必要であり、そのためには取組の目的と将来像を明確化することが重要であると



勉強会の開催

考えられた。そのために焦らずじっくりと腰を据えて検討を続ける必要があるということ話し合い、**庁内合意に至った。**

- ▶ 民間を交えた話し合いの場の**コーディネーターの確保**がキーであったが、様々なネットワークの中から**地元と繋がりがある専門家**が有力候補に上がり、**協力を得られること**となった。

■ **ワーキンググループ立ち上げに向けた「勉強会」開催（計5回）と今年度の実施体制**

**東松島市復興政策部が主体となり、庁内の関係部署と連携し、官民連携プラットフォームの構築に向けて有識者や地元企業等による勉強会を開催**

**実施主体：**

- ・ 東松島市復興政策部（復興政策課、復興都市計画課）

**連携部署：**

- ・ 産業部（農林水産課）
- ・ 副市長をリーダーとする庁内関係課によるプロジェクトチーム
- ・ 石巻専修大学経営学部 李東勲教授（コーディネーター）
- ・ 農業法人、地元企業、地域住民、地域おこし協力隊、移住定住関係者等による勉強会

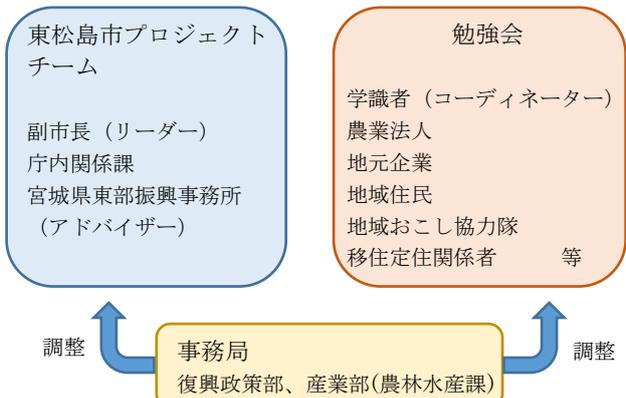
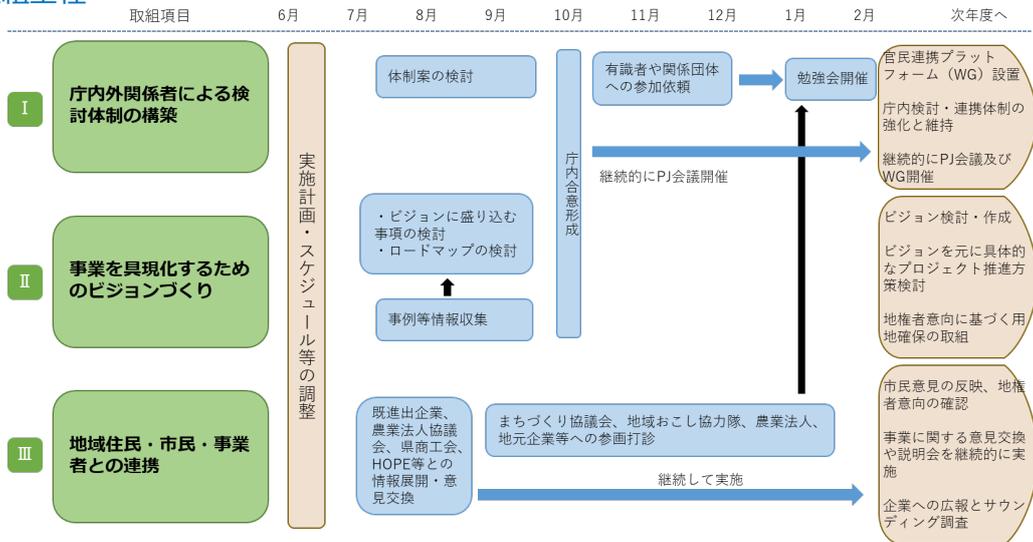


図1 利活用に向けた推進体制

■ **取組工程**



■ **取組成果や重要な検討資料等**

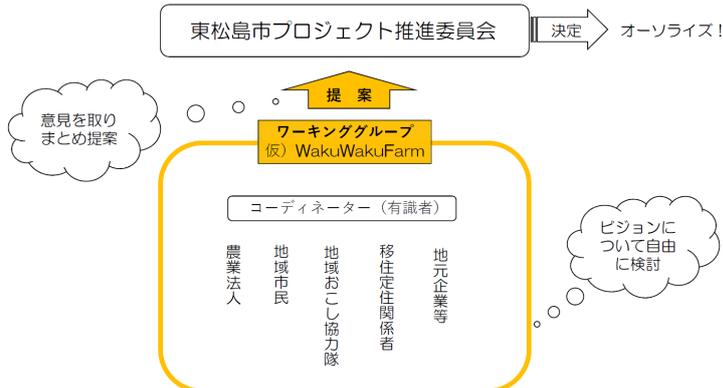


図2 次年度以降の体制イメージ



写真1 勉強会成果



図3 ロードマップのイメージ

## 勉強会の経過

### 【第1回勉強会】令和4年1月25日

(内容)

- ・現地踏査
- ・周辺状況の確認
- ・WGメンバー選出について
- ・今後のスケジュール



### 【第2回勉強会】令和4年2月7日

(内容)

- ・令和の果樹の花里づくり構想プロジェクト概要説明
- ・自由意見交換
- ・ワーキンググループ初期メンバー選出について
- ・今後のスケジュール

■ 主な意見・・・こんな場所にしたい

- ・地元の人が気軽に集まれる
- ・若者が失敗できる
- ・子供がチャレンジできる
- ・乗馬もできる



### 【第3回勉強会】令和4年2月14日

(内容)

- ・地域課題の抽出（自由討議）
- ・李先生講話（ハーレーダビッドソン社の経営理念について）
- ・自由意見交換



### 【第4回勉強会】令和4年2月28日

(内容)

- ・事例紹介 『キャッセン大船渡』
- ・ゾーニング検討
- ① 第I期工区における施設配置案
- ② こどもたちの企画参画検討
- ③ 地域住民の企画参画検討
- ・自由意見交換



### 【第5回勉強会】令和4年3月22日

(内容)

- ・事例紹介 『乙川エリアビジョン』
- ・コンセプト検討
- ① 第I期工区における施設配置案
- ② こどもたちの企画参画検討
- ③ 地域住民の企画参画検討
- ・自由意見交換



## 4. 今年度の取組成果

### 成果1 「全国の事例を参考にロードマップを作成」

- ▶ 全国のまちづくり事例の収集や、移転元地の利活用に向けた今後の取組の『ロードマップ』を作成した。

### 成果2 「官民連携の取組体制による具体的な検討」

- ▶ 様々なプレーヤーを巻き込みながら官民連携により取組を進めるため、まちづくりに造詣の深いコーディネーターを確保し、その協力のもと、関係者の勉強会の開催により、アイデア出しやプレーヤーの発掘を進めるなど、官民連携による取組体制を構築し、具体的な検討を推進した。（今後は関係者のプラットフォームになる「ワーキンググループ」に発展予定）

## 5. 今後の方向性

### ワーキンググループの早期立ち上げと官民連携ビジョンの策定

- ・ 庁内検討組織である「東松島市プロジェクトチーム」と連携して取組を進める、官民連携プラットフォームとなる「ワーキンググループ」を立ち上げるとともに現地での社会実験も交えつつ、地区の将来像や利活用の方策等定める官民連携ビジョンの策定等を進める。

## 6. 取組主体・関係者の声

### ハンズオン支援事業により前に進んだことと今後の課題

- ・ 今年度得られた成果としては、復興庁が伴走的に支援に入っていたことで、課題解決の進め方について市役所内部のコンセンサスが図られたこと、その結果として市主導の進め方から官民連携での推進にシフトしたことが挙げられる。



東松島市役所 復興政策部  
復興都市計画課  
森祐樹 課長

1

2

3

4

5

6

7

8

9